

2022 年度ゼミ活動紹介

第 20 期 松崎 葵

小野晃典研究会 OB・OG の皆様、初めまして。第 20 期外務代表の松崎葵と申します。この度は、OB・OG 会誌を通して、皆様にご挨拶できる機会を頂き、心から嬉しく思います。この 1 年を通して、多くの OB・OG の皆様と交流することができ、ご協力いただいたおかげで、20 期という節目の期を迎えた本年度も有意義なゼミ活動を行うことができました。今後とも変わらぬご支援の程、どうぞ宜しくお願いいたします。



さて、私からは、2022 年度のゼミ活動について、簡単にではありますが、お伝えさせていただきます。

まず初めに、各期の活動を簡単にご紹介したいと思います。3 年生にあたる第 20 期生は、基礎文献レポートや解析技法レポートを通して、マーケティングを学ぶ上で必要となる知識をインプットするとともに、ディベートやケースメソッド、三田祭論文執筆などを通して、それらの知識をアウトプットすることに励みました。また、有志活動としてビジネスプランコンテストにも参加しました。さらに、秋学期からは役職が決定し、先輩方から仕事を教わりながら、ゼミ運営に携わりました。4 年生にあたる第 19 期生は、ご自身の卒業論文を執筆しながら、統計分析技法レクチャー、三田祭論文の添削、各役職の引継ぎなど、いつも親身に、ご丁寧に、指導してくださいました。

次に、今年度に行われた主な活動につきまして、時系列に沿って振り返りながらご紹介したいと思います。

2022 年 4 月に第 20 期生が入会し、今年度の活動が開始されました。今年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインを併用しながらも、主に対面での活動となりました。

6 月中旬には、関西大学千葉貴宏ゼミナール、中央大学久保知一ゼミナール、東洋大学竹内亮介ゼミナール、立命館大学菊盛真衣ゼミナールと共に、三田キャンパスにてインカレディベート大会を実施いたしました。本年度は 3 年振りの対面での開催となりました。当大会に出場いたしました、第 20 期生は、4 月からのゼミ活動で鍛えた成果を存分に発揮し、見



バレーボール大会にて

事勝利を収めることができました。

6月下旬には、商学部ゼミナール対抗のバレーボール大会に出場しました。第19期生、第20期生に加え、小野先生と大学院の先輩方も出場してくださいました。全員がお揃いの小野ゼミTシャツを着用し、一丸となって臨むことができ、大変楽しく幸せな時間でした。また、大会後には、浅草寺へ参拝し、その後、納会を開催しました。大盛り上がりの1日となり、今後のゼミ活動に向けた英気を養うことができました。

9月下旬にはオンライン上で、「密ゼミ」を開催いたしました。第19期生は卒業論文、第20期生は三田祭論文の中間発表を行いました。また、夏合宿の定番である24時間ケースメソッドのテーマは、「サブスクリプション戦略でSONYのテレビ事業を立て直せ！」でした。第19期生が非常に完成度の高いケース資料を準備してくださったため、第20期生は楽しみながら、取り組むことができました。各グループの個性溢れる発表に対し、小野先生や先輩方が丁寧にフィードバックしてください、大変実りの多い企画となりました。



密ゼミにて

10月初旬には、「関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC」の本選考に参加いたしました。第20期生は2チームに分かれ、5月頃からホテル業界や公共事業に焦点を当てたビジネスプランを練りました。本選考までの約4ヶ月間、小野先生や先輩方はより優れたプランとなるよう、細部まで丁寧に、ご指導してくださいました。その結果、1チームが、優秀賞を頂くことができました。

また、同じく10月初旬には、慶応義塾大学の高橋郁夫研究会と高田英亮研究会と共に、3年振りに対面にて3ゼミ合同三田論中間発表会が開催されました。高橋郁夫教授や他ゼミ生からは今後の研究に向けた貴重なアドバイスを頂き、第20期生の励みとなりました。

10月下旬には、第19期生が韓国の済州島で開催されたICAMA 2022 JEJUに参加しました。第19期生は、“What Motivates Anime Viewers to Undertake an Anime Pilgrimage?”というアニメオタクの聖地巡礼動機

に関する論文を発表しました。海外の研究者たちを前に、初めての英語での発表となったため、非常に緊張しましたが、発表を終えた際にはセッションチェアの方がプレゼンを称賛してくださり、非常に心に残る経験となりました。

11月上旬には、東京ビッグサイトにて開催された JIMTOF（日本国際工作機械見本市）を、ゼミ生一同で見学いたしました。このイベントは、小野先生の所属されていた清水猛研究会に同じく在籍されていた、清水大介社長が企画してくださったものであり、日本の技術力の高さを改めて学ぶ大変貴重な機会となりました。

その後、第20期生は三田祭論文の執筆に注力いたしました。11月下旬には慶應マーケティングゼミ合同研究報告会にて、12月上旬には四分野インゼミ研究報告会にて、発表を行いました。第20期生は、研究テーマを「一人称動画と三人称動画、どちらの広告が有効か？——制御焦点理論に基づいて——」とし、8人で1つの論文を執筆いたしました。仮説提唱から執筆に至るまでの段階においても順調とは言い難く、様々な困難に直面しましたが、第20期生の良さである穏やかさは変わることなく、互いに助け合いながら、乗り越えることができました。また、小野先生や先輩方は、昼夜問わず、いつでも寄り添ってご指導くださり、プレゼンにおいても、他ゼミの教授の皆様から高い評価を頂くことができました。



慶應マーケティングゼミ合同研究報告会にて

今年度も、こうして実りの多いゼミ活動を行うことができましたのは、OB・OGの皆様のおかげがあったからこそだと思います。そこで、この場をお借りして、今年度お世話になりました OB・OGの皆様のご紹介をさせていただくとともに、感謝の気持ちを綴らせていただきます。

6月11日に開催されたインカレディベートに、千葉貴宏先輩（第5期）、菊盛真衣先輩（第7期）、竹内亮介先輩（第9期）がご自身が持たれているゼミの指導教授として参加されました。また、土谷鈴先輩（第

16期), 江碓舞香先輩(第17期), 加藤愛奈先輩(第18期)が来訪くださいました。差し入れもいただき、ありがとうございました。

10月25日には、入ゼミ説明会のOB・OG講演に矢野瑞喜先輩(第13期), 土谷鈴先輩(第16期)が、ご登壇されました。小野ゼミ時代のお話から現在のお仕事のお話をしていただき、2年生はもちろん、私たち第20期生も非常に刺激を受け、小野ゼミ生として誇ることができる活動をしようと気を引き締めることができました。ありがとうございました。

11月20~23日の三田祭期間には、土屋鈴先輩(第16期), 柳原慎平先輩(第16期), 江碓舞香先輩(第17期), 井原真衣先輩(第18期), 加藤愛奈先輩(第18期), 都竹卓哉先輩(第18期), 芝田朱莉先輩(第18期)が来訪くださいました。差し入れも頂き、ありがとうございました。

11月20日に行われた慶應マーケティングゼミ合同研究報告会では、高木研太郎先輩(第3期)がコメンテータとしてご参加くださいました。鋭いご指摘やアドバイスを頂き、大変勉強になりました、ありがとうございました。

OB・OGの皆様、今年度も、ご多忙のところ、貴重なお時間を割いて小野ゼミの活動にご参加くださり、誠にありがとうございました。

私たち第20期生は、新型コロナウイルスの影響を受け、大学生の2年間の大半をオンラインで過ごして

まいりました。しかし、本年度はゼミ活動を対面で行わせていただくことができ、小野先生や先輩方、そして同期と顔を合わせ、議論させていただける喜びを、日々感じております。そして、日頃のゼミ活動における小野先生や先輩方の背中や、OB・OGの皆様



浅草寺にて

の活動記録を通じて、全ての活動に対する熱い姿勢こそが小野ゼミの強さであり、これまでOB・OGの皆様が大切に築き上げてこられた伝統の一つ一つには、大切な意味があることを学びました。この小野ゼミの素敵な伝統を絶やすことのないよう、現役生一人一人が小野ゼミ生としての高い意識を持ち、受け継いでいきたいと思いをします。

来年度は、新たに第21期生が加わります。第21期生には、輝くOB・OGの皆様が続くことができるよう、これまでの小野ゼミの伝統を大切に受け継ぎつつも、新たな風を吹かせ、ゼミを盛り上げてほしいと思いをします。そして、私たち第20期生は、これまでOB・OGの皆様、小野先生、先輩方から学ばせていただいたものを自身の糧とし、惜しみなく後輩の育成に捧げていきたいと思いをします。最後になりましたが、今後ともご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願いいたします。